

自分を支えて生きていくものを考える

目次

- 1 動機
- 2 対話活動（インタビュー）
 - 2-1 対話活動報告①
 - 2-2 対話活動報告②
 - 2-3 対話活動後のまとめ
- 3 結論
- 4 おわりに

1 動機

自分の興味・関心を明確にするために、数回のディスカッションを経て、他者に語ったり、アドバイスをもらったり、また自分の頭の中で消化したりして、ようやく自分の興味・関心に対するイメージは前より少し明らかになってきた。もっと深く掘り下げたら、自分の興味・関心は現時点にいる私が将来の私と繋がって、一人の人間としてどのように生きていくことであると絞られた。それはこの世にいる私たちにとって、きっと自分を支えて生きていくものがどこかにあるはずだと考えているからである。

最初のディスカッションには、私は自分の興味・関心を「バドミントン」と「旅行」として語ってきたが、結局振り返って考えてみると、毎日バドミントンと旅行のことばかりを考えているわけでもないし、忙しくなったらまったくそんなことを考えずに放置したままの状況である。単に達成感を感じるとか、ストレス解消できるとか、自分をリラックスするなどの面から考えると、好きなマンガを読んだり、面白い映画を見に行ったりすることもできるのではないかと頭の中に疑問が湧き上がった。従って、「バドミントン」と「旅行」は自分の本当の興味・関心ではないことが自明できる。「興味・関心」と言うより、寧ろ「趣味」のほうが適切だと思われるだろう。

とは言っても、バドミントンや旅行や映画鑑賞などは「興味・関心」というものと全く関係がないとは言えないだろう。達成感を感じるため、バドミントンをする。ストレス解消のため、旅に出ること。リラックスするため、映画を見に行くこと。違う場合であれば、その場に合わせる行動をするなど……それは全部私が生きている証拠でありながら、生きていくための行動であると考えられるだろう。

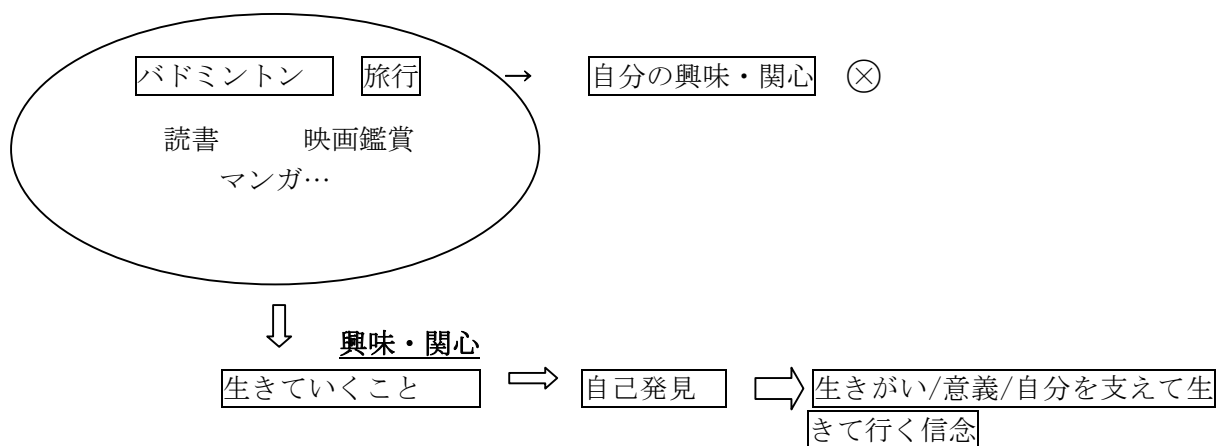
このように考えたら、私にとって「生きていくこと」とは何だろうか。この世界に私は一人で生きているのではなく、他人と関わりながら生活しているのは当然である。他人

と繋がっているその「輪」の中に、それぞれの場面や状況に従い、自分の行動が変わる。要するに、違う場面や目的によって変わった行動の裏には違う「自己」がいることは想定できる。そこで私が常に考えているのは「自己」とは何か、違う場面にいる「自己」を発見することはどんな意味があるか、つまり、なぜ私はそこでそんなことをするかということである。このような考える活動を通し、自分を支えて生きていく意義すなわち「生きがい」を見つけ、それを目標として向けて頑張れば、自分もよりよく自由になり、より良い生活を送れるようになるのではないかと思う

しかし、様々な「自己発見」の過程から自分の「生きがい」を見つけることに対し、分かる人が分かるだろうか、分からない人にはまったく意味が分からないことかもしれない。

では、「生きがい」というのは、私にとって具体的に何を指しているか？使命、夢等というもの？

その質問を巡り、「自分を支えていく生きがいを見つける」という主張に基づいて考えてみた。皆さんはそれぞれ自分なりの考えを持っているが、私にとって「生きがい」はその時点また将来に自分を支えて生きていく「信念・気持ち」を指していると述べたい。だとしても、わたしの「生きがい」は人類のために貢献したいとか、有名な教育家になりたいなど偉い夢また使命ではなく、個人的な解釈としたら、単に一人の人間として、周りの人々を傷つけないように思いやりを持ちながら、自分の心を自由にさせることであると思う。したがって、達成感を求めるためバドミントンが好きになったり、ストレス解散するため旅に出たり、人が困っている時限られていない範囲で力を貸してあげたりし、自分の「人間性」を満たすことを目指している。



2 対話活動報告

2-1 対話活動①：

●対話対象：Oさん（男性、60代）

理 由：Oさんは自分の職業を37年間以上持つ経験があり、たとえいくら難しい苦境に陥っても、最後まであきらめずに頑張ってきた。強い心や信念を持っているお方である。わたしはOさんが長年間お仕事に対する情熱を傾けて、

それに親切で思いやりがあるところに惹かれ、自分のテーマに関連しながら、共有できる部分はかなり多いと思い、Oさんと対話することにした。

対話時間：2010年12月5日（40分間）

活動の流れ：

- ①まとめたレポートを読んでいただき、授業のコンセプトや対話活動の目的や自分の主張を簡単に説明する。
- ②対話活動のデータを収集するために、インタビューの録音の許可をもらうこと。

●参考資料1) 一まとめたレポート

参考資料2) 一質問用紙

質問Ⅰ：なぜ長年経っても、Oさんは自分のお仕事に対してそんなに情熱を注いで、あきらめずに頑張ってきましたか。

質問Ⅱ：Oさんにとって、人間として生きていくために、一番大切なのは何ですか。

質問Ⅲ：Oさんは人間関係あるいは他者との関わりについてどう思いますか。

質問Ⅳ：「自分を支えていく生きがいを見つけよう」という主張に対し、どう思いますか。生きがいを見つけることは必要があると思いますか。

●対話活動の内容（Oさん&Sさん--筆者）

（レポートを読んでもらった後）

O：（レポートを指す）「私にとって「生きがい」はその時点また将来に自分を支えて生きていく「信念・気持ち」を指していると述べたい。うん、僕もそう思うよ。

S：はい。

O：ここに（レポートを指す）アンダーラインを引いとくほうがいいだよ。

S：はい、「私にとって」からですね。

→「自分を支えていく生きがいを見つけよう」という主張に対し、どう思いますか。

O：結局バドミントンとかさあ、旅行とかさあ、これは趣味の世界じゃないですか。

S：ああ～そうですね。実は私はじっくり読んだら、それが興味ではなく、趣味だと思いますね。

O：いや、こことしたら、興味でもいいし、趣味でもいいし、関心でもいいと思うんだが。生きがいとはちょっと違うね。生きがいというのは、やっぱり自分を支えていくもの。生きていく上での糧だと、僕は思う。（糧—重要なもの）

で、僕は生きがいを（紙で生きがいを「生き涯」と書いた）このように書きたい。私見で僕は漢字を作ったけど、この「涯」の漢字は正しくないけれども、僕は生きがいをこういうふうに解したい。これはどういうことかと言ったら、要するに「生涯」でしょう。生まれてから死ぬまでの中で、自分が考えられる時期、つまり物心が付いている時期から、（紙でメモした：就学→社会/就学→結婚→子供）就学して、そして社会に出て就業して、

僕の場合は結婚して、家族も増えて、勿論子供も恵まれるでしょう。その中で家庭が増えたら、家庭を思いやる。それが僕の生きがいですよ。そのために仕事もちゃんとして、自分も健康で仕事をしないといけないし、家族を愛さないといけないし、で、そしてずっと加齢して行くわけですね。それが僕の生きがい。家庭を大切に作る、愛する、仕事を一生懸命やる。勿論仕事を一生懸命やるのも、家庭を守るためにね。

→ **O**さんにとって、人間として生きていくために、一番大切なのは何ですか。

S: わたしは他の人にも「生きがい」について聞きましたけど、結局向こうから返してきたのは、「今まで私はあまり「生きがい」を考えずに生きてきました」という答えです。

O: 僕は彼らが分からないことはないと思う。というのは、その人がそう答えた意味が分かる。その人がなぜそういう風に言いながら、やっぱり考えているのだよ。突然に聞かれたから、その人はどさりとそう答えたかもしれない。だけど、時間をかけて、あるいはもっと話をすれば、絶対何か出てくる。だから、僕は「愛情」が一番大切だと思う。もう1つは「健康」。「愛情」は精神面で、「健康」は肉体の面だと思われるね。結局その人のステータス、その時に置かれた立場で思った答えも違うよね。当然子供であれば、子供としての答えがある。父親であれば、父親としての答えがある。母親であれば、母親としての答えがある。また子供がいる、いない人たちの答えは違ってくるでしょう。

→ **O**さんは人間関係あるいは他者との関わりについてどう思いますか。

O: 「生きがい」に対する解釈は一人ひとり違うけど、やはり一個人として、家族を持っているか、持っていないかによって、答えは違ってくるね。関わりのある人がいることによって、その人が守っていなければならないよね。

→ **O**生きがいを見つけることは必要だと思いますか。

O: 実は毎日そんなことについて考えなければならぬ仕事ではないから、僕はSさんに聞かれてから考えはじめた。結局今の自分としては、答えはそこにあるだという結論をつけた。

S: 私は自分の「生きがい」を解釈としたら、ただ一人の人間として、周りの人を傷つけないように思いやりを持って、自分の心を自由にさせたいです。例えば落ち込んだら、バドミントンをやって達成感を見つけるとか。

O: 例えばバドミントンとか、旅行とかは趣味の世界で、落ち込んでいる時、自分で自分にモチベーションを与えるのも必要だね。だから、こういう気持ちを切り替えるために、バドミントンをしたり、自分の好きなことをしたりする。こうして自分の気持ちが元気になる。しかし、言い換えれば、それは生きがいじゃないよね。「生きがい」というのは見つけようと思って、見つけられるものじゃないと僕は思う。これは僕が言える。

S: ああ、生きがいって見つけようとしても、見つけるものではないとおっしゃいましたが。うん、(考え中) それはわざわざ意識して行動する必要はないということですか。

O: そうだね。生きがいは生きていく上で、自然に到達するのではないかなあ。自分にとって、生きていく上で一番大切なものだよ。

S: 私の場合ですね、最初に自分の興味・関心を「バドミントン」と「旅行」として考

えてきたが、そして「表に見えるのではなく、自分を支えて生きていくものはきっと心のどこかにある」に気がつきました。

O: **S**さんの場合だとしたら、支えて生きていくものはやはり周りの「愛」でしょう。ファミリーのお父さんとお母さんと他の家族たちでしょう。ただ、バドミントンとか、元気になる上に必要となるね。

S: 自分がなぜ生きていくのかは分からないまま、私にとって人生の意味もなくなってしまふ気がするけど。

O: そんなことはないよ。**S**さんが一生懸命頑張っているから、それが人生というものだよ。で、生き様だよ。先の話は全部僕個人的な意見で、**S**さんに当てはまるか、みなに当てはまるか、それは違うよ。

2-2 対話活動②:

●対話対象：Tさん（女性、60代）

理由：Tさんはいま専業主婦として活躍しているが、若い頃にはお仕事と家庭を両立させた経験もあった。とても親切なお方で、お話ししやすいだけでなく、女性である立場や自らの経験からたくさんのいいアドバイスを頂けるに違いないと思う。

対話時間：2010年12月5日（30分間）

活動の流れ：同対話①

●参考資料1) 一まとめたレポート

参考資料2) 一質問用紙

●対話活動の内容（Tさん&Sさん一筆者）

→**T**さんは長年間お仕事と家庭を両立させ、ずっとあきらめずに頑張ってきましたが、なぜそこまで頑張れますか。

T: 頑張れるのは、お仕事と家庭？何が支えていると言ったら、私の原点は親が生きてきたように私も生きているということだと思う。だから、うちの母親はすごく愛情に細かい人で、私は母親からたくさんの愛情をもらって、それが私の生きる原点です。母と父の背中を見て、自分もそんな風にして結婚して家族を大切に、だから「生きがい」として言葉を使ったら、子供の生まれと成長するのは、それはその時点の「生きがい」だと思う。子供たちがいたから、それが生きがいと繋がって、苦しい時も頑張ってくれたということかな。

→人間として生きていくために、一番大切なのは何ですか。

S: 私の興味、多分趣味の言い方のほうがふさわしいかもしれませんが、バドミントンとか、旅行などです。やはりそれは何かのためにするわけだと思います。私にとっては、生きていくために、達成感を求め、自分をリラックスさせたいんですが。ですから、バドミントンをしたり、旅行をしたり、生きがいを考えたりします。Tさんの場合はどうですか？

T: 大切なのは、人に必要とされているからじゃないか。必要とされることが、やはり「生きがい」にも繋がるんじゃないかなと思う。結局人間って、人に必要とされてなかったら、すごく張り合いがなくなっちゃうと思うものね。

S: はい。

T: わたし達みたいな主婦の人は、本当は子供に会ったり、周りの人に出会ったり、やっぱり人に必要とされたら、嬉しいのではないかな。喜びをもらったら、自分も喜びを返す。こう投げかけた時に、向こうから喜びを返ってきたら、お互いに喜んだり、喜ばれたりする。やはり人間として生きていくためには、他人に必要とされることは一番大切だと思う時もある。

S: 必要とされるから、自分がその人たちのために、頑張ろうって、と思って生きていくということですね。

→ 人間関係あるいは他人との関わりについてどう思いますか。

S: 人に必要とされる場合には、人間関係も生まれますね。Tさんは他人との関わりについて、どう思いますか。

T: 実は、私は他人との関わりというのが大好きだよ。大好きだけど、ある年齢までは選別しているところがあった。この人は人の悪口を言うから嫌とか。物質的ではなく、精神面で選別したような時があったよね。それは人と関わりについて、すごく偏ったものの見方をしたりすると考える。勿論、人間は先入観があると言っても、この頃の考え方は変わった。中国人だって、日本人だって、アメリカ人だって、根本は一緒だと思うようになった。年が取ってきたからかもしれないが、この頃はその囲い、あるいは隔たりを取っ払って付き合うようになった。

→ 「自分を支えていく生きがいを見つけよう」という主張に対し、どう思いますか。生きがいを見つけることは必要があると思いますか。

T: このように、「生きがい」を突き詰められたら、少しやり過ぎると思うが、毎日の中には「生きがい」ってあるのではないかなと。

S: 毎日？

T: 例えば、今日はすごくいいお天気だから、いっぱいお洗濯して、お部屋をきれいにすることによって、なんか毎日の流れの中で、自分が幸せに感じたり、張り合いがあると感じたりする。わざわざ潜らなくても、「生きがい」にして行かなくても、なんか毎日の中にあるのではないかな、と思う。

S: では、わざわざ「生きがい」とは何かを潜る必要がなければ、常に「生きがい」が感じられるとしたら、それを意識する必要がありますか。

T: 私は、意識するのではなく、ただ自分の好きなことは「生きがい」に繋がってると思うよね。だから、好きなことをしたら、すごく自分も幸せになるし、張り合いもそこから出てくるし、自分が幸せになったら、人にも優しくできる。それは必要と言うよりは、あればいいだと思う。やっぱり「生きがい」というのは、不変なものではないし、一言で纏めることでもないと思う。人それぞれだから、持っている「生きがい」はそれぞれ違っていいと思う。この数十年間生きてきた中で、自分の経験を通してこのような結論になった。もしかして、これから80になった時には、もっと違う「生きがい」というか、生きていくための喜びを見つけるかなと思う。

2-3 対話活動後のまとめ

今回のインタビューには、私よりもっと人生の経験が豊富な年上の方(Oさん&Tさん)を対話対象にさせてもらった。さらに、私の「生きがいを見つけよう」という主張に対し、OさんとTさんから私の心に響くような良い意見をもらった。

まず、一回目の対話活動に、Oさんにレポートを読んでもらった後、Oさんは自分の感想に加え、「生きがい」とは自分を支えていくものだという解釈に賛成する意見を出した。そして、自分にとっての「生きがい」は「家族を守ること」だと述べた。Oさんは37年間ずっと自分の職業に情熱を燃やし、いくら苦境に追い込まれても、最後まであきらめずに頑張ってきた。それは周りへの「愛情」を持っているからである。特に、その時点では、一番大切なのは家族への愛情だということが分かった。それに、「生きがいを見つける必要があるか」という質問に対し、Oさんは「生きがい」を見つけようと思っても、見つけられるものではなく、生きていく上で、自然に到達するものだと答えた。

Tさんとの対話は他の視点からアドバイスをもらった。しかし、なぜずっとあきらめずに頑張ってきたかという質問について、家族を大切にすることは自分の「生きがい」になるとTさんはこのように答えた。人生の旅において、人に必要とされる時、すごく張り合いがあって、自分の生きがいにも繋がるのではないかという意見である。「生きがいを見つける必要があるか」と聞かれると、Tさんは自分の数十年間の人生の経験を通し、「生きがい」というのは、不変なものでもなく、一言では纏められないことから、毎日の生活の中には「生きがい」があるのではないかという結論を出した。

4 結論

社会の多様性や流動性により、その社会に生きる個人の多様な生き方を認めざるを得ないということである。個人は社会から独立しているものではなく、他人と関わって生活していく上で、それぞれの場面において様々な問題と正面で向き合わなければならない。こんな自分が当然疲れると感じるだろう。その疲労困憊の状態から抜け出すために、好きなことをして自分も元気になるし、張り合いも出て来るから、バドミントンとか、漫画を読むとか、旅行等のようなことを自分の「生きがい」だと勝手に解釈した。さらに、自分の生きがいを見つけなければ、生きていく意味さえなくなってしまうと思うようになった。

しかし、OさんとTさんへのインタビューを通し、今まで自分が「生きがい」への理解は極めて主観的かつ一面的な見方だということに気付いた。自分を支えて生きていくものはきっとどこかにあると思う一方、このように「生きがい」を突き詰めたら、少しやり過ぎるのではないかと自分もよく疑っている。別にわざわざ「生きがい」を見つける必要もなく、結局毎日の流れの中で、周りの他者と関わっていくうちに、自然に到達できるという結論になった。

人生の旅には、違う時点での様々な出会いの中、なぜ自分がここまで生きてきたか、一人ひとり自分なりの解釈を持っているだろう。それはまるで人生という道路で車を運転するとき、道路の傍らに立っている道標みたいなものである。違う距離で立っている道標に書いてある指示も違うだろう。したがって、人間は人生の一つの段階に現れてきた「道標」にこだわるべきではない。一方、その道標らを通して今後の方向性を追求することの重要性を示している。すなわち、現時点において自分を支えていくものを掘り下げること

は大切だと言っても、もっとも重要なのは今後自分が生きていく人生の方向性を見つけることだと分かった。

○さんとTさんの興味深い話に触れたように、今私にとって極大切な存在だと思われるのは、家族の間にある「絆」である。今回の対話活動により、私はようやく周りへの「愛情」、特に家族への思いがあることの大切さを考えるようになった。人間は良く変わるものと言っても、大切なものがあってからこそ、守らなければならない気持ちはきっと変わらないだろう。わざわざ「生きがい」を見つけるのではなく、現時点の私は家族への「愛情」を抱えて生きていくのは、今私の生き様である。以上述べたように、自分を支えているものを考えるのは、生涯にも続けなければならない作業であるため、一つの結論にこだわらずに、常に自分の行動を振り返ってみることは、未来にも繋がっているのではないかと、思うようになった。

5 おわりに

この授業を参加した最初の頃、何の手掛かりもないままの状態から始まって、まる一学期でグループのメンバーとのディスカッションを通し、やっと結論を付けることができ、気持ちもすっきりした。自分の興味・関心というテーマから入り込んで、それを自分の課題として「柴犬G」のメンバーと意見を交わしたり、過去・現在・将来のことと繋がってレポートに自己分析をしたりして結論を出した。このような協働して共に考える活動を通し、なんと闇の中で模索している自分は、ようやく光を見出すように感じをした。「考えるための日本語」を履修する前に、自分と生きていくこととの関係性については、まったく考えていなかった。しかし、この授業を通し、その関係性をより明確できたことと「柴犬」の仲間ができたことは、自分にとって一番大きな「収穫」だと思う。

また、この活動において日本語で考えたり、他人とコミュニケーションをしたりするプロセスを経て、私は既に自分の「ことばの市民」になったのではないかと考えている。ここでの「ことばの市民」になったというのは、単に私自身にとってのことを指しているが、すべての人に当てはまるわけではないと思う。

私が考えている「ことばの市民」は「ことば」と「市民」という二つのキーワードがあるから、「ことばの市民」にも二重の意味を持っているとまとめたい。まず、「ことば」の視点から見ると、日本語を媒介物として自分の考えを他人に伝えたり、他人からアドバイスをもらったり、また考えを整理したりするその「発信と受信」の過程を経て、既に「ことば」の世界での「市民」になったと考えられる。一方、「市民」の立場から考えてみたら、最初に思いついたことは「市民」というコミュニティがある以上、「市」という共同体（コミュニティ）も存在していると想定できるのではないかと。この授業では、私達は自分のテーマを持って、他人とグループを組んで、各自のテーマを巡ってディスカッションを行い、意見を交換しながら、一つのグループとしての「一体性」や「連帯感」を現れてきた。こうして、ことばで自分を開くことにより、グループの中で関係性を構築し、さらに社会にも広がっていくこともできるのではないかと。それこそ、コミュニティ作りの意味上での「ことばの市民になる」と言えよう。